

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.54 2010年2月号

「毎日楽しく」の2009年12月号で、松下幸之助さんの「ダム式経営」のお話をしました。今月は、JALの件で最近何かと話題の京セラ稲盛和夫さんが、昔、すでに経営者として有名だった松下さんの講演会に出席して松下さんご本人からダム式経営のお話を聞いたときのエピソードをご紹介しますと思います。ダム式経営というのは、商売における好不況の波の影響を極力少なくするように、業績がいいときには無駄使いを慎んでお金をためておき、業績が悪いときにはその蓄えを取り崩して設備投資や人件費の支払いに備えようという考え方でした。松下さんがこのお話をしたとき、会場の出席者から次のような質問を受けたそうです。

「ダムを作ることの重要性は皆わかっています。問題は、そのダムをどうやって作ったらいいいのか、それを聞きたくて皆ここに来ているのです。具体的に、ダムをどうやって作ればいいのかですか？」

これを聞いた松下さんは少し困った顔をして、

「具体的なダムの作り方は個々の商売でそれぞれ違いますから、私にはわかりません。ただ、『ダムを作ろう』と思わないとだめですね。」

松下さんの答えとも言えない答えに失望した会場では、失笑が起きたそうです。しかし、稲盛さんは失笑するどころか、衝撃を受けたそうです。

『ダムを作ろうとしなければ、ダムは決して作れない』

すなわち、何かをなしとげようとするれば、まずはそう思わなければならないということです。常日頃から自分の商売において『ダムを作りたい』と思っていれば、普段、気にしていない他人の会話や新聞・テレビなどから、そのために必要な情報が目につき、耳に入るといいます。ただし、そうなるためには単に『思っている』というぐらいでは足りず、寝ても覚めてもそれを思い続け、潜在意識に透徹するぐらい強烈に思い続けなければならないと、稲盛さんは言います。

「潜在意識に透徹するぐらい強烈に思う」というところのハードルがなかなか高そうです。

